

東京鷹桜同窓会報



写真提供/酒匂純孝先生

巻頭の言葉

安部俊彦

山形料理「もきち」店主



100年に1度といわれた暑い夏も過ぎ、少しずつ秋めいてきて、東京鷹桜同窓会総会が開催される季節になってまいりました。経済不況のトンネルの先はまだ見えていませんが、皆様には御健勝のことと存じます。

山形交通東京支社に勤務されていた大友茂之さん（前事務局長）の転勤に伴って、3月の役員会のご推薦を頂き、東京鷹桜同窓会の事務局長を務めさせて頂くことになりました。何卒よろしく申し上げます。

忙しさにかまけて過ごす日々が多いのですが、ふとしたときに故郷・長井のことや母校のこと、友達のことを思うといつのまにか心が安らいできます。私は東京鷹桜同窓会に出席させて頂いて7年になりますが、「ほだごで」などと置賜弁で話せるなつかしい友や“もう怖くない”先生に再会できたり、また新しい出会いがあったり、長井の変わり様を聞かされて驚いたり、ということがたくさんあって本当に楽しいひとときです。

これからは、皆様のご意見を伺いながら他のイベントなども考えていきます。老いも若きも、ぜひ東京鷹桜同窓会に参加して語り合しましょう。（昭和46年卒）

わが道を行く

MY WAY

なげ だ かず ひろ
竹 田 一 熙

作曲・編曲家・指揮者・エレクトーン演奏家



私は昭和7年に竹田悦三、きちの長男として東京で生まれました。往時の我が国は戦時色が強く、幼稚園や尋常小学校時代は旗行列や提灯行列、出征兵士歓送や英霊の謹迎等に明け暮れる毎日でした。

昭和15年父は満州帝国奉天の学校に単身赴任し、翌年12月に大東亜戦争が勃発、男手の無い母は私(小4)と妹恒子(小2)を伴って昭和17年5月に故郷の長井へ疎開し、私達は長井国民学校に転校、その日から長井の人としての生活が始まったのでした。

疎開児童の先駆者であり、革靴を履いて学校に通う私達は当初は物珍しく思われたのでしょう。『東京人』と云われて宇宙人扱いを受け苦勞したのですが、やがて裸足で校庭を駆ける事が出来る様に成り、置賜弁もマスターして『ムカサリ』や『ヤハハエロ』の意味を理解した頃には友達も増え、縁故疎開や集団疎開が転校して来た時等は、通訳?を勤めたりして居るうちに、『よそ者』のレッテルは漸次に剥がれ、名実共に長井の仲間としての意識的市民権を得る事が出来たのでした。

やがて旧制の長中に入学しましたが戦況激化に伴い軍事教練や勤労働員の毎日で、予備軍隊教育としての生活を送りましたが当時の事柄は現在も昨日の出来事の様々に記憶に克明に残って居ります。

今から見れば得難い体験でしたが、それらを通じて連帯感や責任感、協力と人の和の大切さを教えられた貴重な時期であったと思って居ります。

そして終戦、世の中が一変し、それ迄禁じられていたもの総てが解禁となり、幼稚園以来離れていたピアノと漸く再会する夢が叶ったのでした。

終戦直後は音楽専任の先生が居られず、守谷辰雄先生や酒井健一先生にも音楽の授業を受けた事があり、両恩師の先生とお会いすると『俺はお前に音楽も教えたなあー』と今でも話題に上ります。

その後沼沢、田村、佐藤先生と変わり昭和22年長井第一高等学校併設中学校3年の夏に山口のぶ先生が赴任され、その時から本格的な音楽活動が始まり、翌年第一高校(男声合唱)のみでNHK山形放送局からの放送等を致して居りましたが、やがて第二高校(当時奥村千寿子先生)と合同で

混成合唱を始め、合唱祭や合唱コンクールの県大会を始めとして数々の活動を行う様になりました。

当時まだ1年生の私は、僭越にも先輩諸氏を差置いて指揮を担当し卒業まで長高合唱団初代指揮者を務めました。当時初代音楽部長であった東京都副知事の高橋俊龍氏や宇治紫文女史も含めた仲間と、今でも機会ある毎に会い旧交を暖めて居ります。

私は卒業と共に東京の武蔵野音楽大学に進学し作曲と音楽理論をクラウス・プリングスハイムス、ピアノをレオニード・コハンスキー、榊原直、フルートを吉田雅夫、奥好寛、管弦楽指揮法を近衛秀麿、金子登、坂本良隆等に個人教授を含めて師事し、学生の頃から大学の管弦楽団を指揮する傍ら民間放送の番組やレコード、映画等の作曲や編曲を行って居りましたが、昭和34年電子楽器エレクトーン誕生以来、ヤマハ専属演奏家として契約し、演奏活動を始めとしてコンクール審査員や能力検定試験の試験官等も勤めて居ります。

現在迄テレビ出演やレコード、出版曲集も多く、昭和43年に芸術祭公演、昭和46年ヨーロッパ演奏旅行、昭和53年に東南アジア演奏旅行、昭和60年に美智子妃、三笠宮妃、高松宮妃殿下の御前演奏も行いましたが、長井関係の行事では昭和43年から8年間、立川清登、デュークエイセス、ボニージャックス、菅原洋一他友人達の協力で行った長井青年会議所主催のチャリティコンサート、52年長井市民文化会館のリサイタル《エレクトーンの華麗な饒舌》、57年の卒業30周年記念卒業生代表講演《マイ・ウェイ》、57年の長井北中学校校歌作曲と披露式典講演、61年北中創立5周年の月例講話、平成元年【早苗ヶ原の集い】第一回のイベントゲスト、平成3年小国支部主催《ぶなの里触れ合いコンサート》(3年11月9日山形新聞記事)等があり、若し些かなりと長井地域の文化向上に寄与し得たとすれば、此等は総て同窓会諸兄諸姉の結束ある行動力や御協力と御支援の賜物と深く御礼を申し上げます。

『校歌は人生の応援歌!』鷹桜同窓会の一員である事を誇りとし、益々精進致す所存で居ります。

尚末筆で恐縮ながら会員諸兄諸姉の御健勝御発展を心より御祈り申し上げます。(昭和26年卒)

先生お元気ですか

同窓の縁は有難いもの

高橋正夫先生

(理科)



今年は記録的な猛暑の夏、皆さんお変わりありませんか。私は長井一高と二高が統合して長井高校となった昭和25年から、30年の南北分離後は長井北高に38年まで13年間勤務いたしました。その後、長

井工・寒河江工・新庄工・鶴岡工と転々とし、昭和62年山形北高を最後に定年を迎えました。私の教員生活で最初が母校であったこと、在職中は何かと同窓の方々にお世話になることができたことは、とても幸せなことでした。同窓の縁はこの上なく有難いもので心から感謝しております。

退職後は3年ほど県庁で青少年育成の仕事を手伝っていましたが、狭心症でダウン、以後自宅でおとなしくしています。現在は体調も落ち着き、薬持参で旅行に出かけることもできるようになりました。やはり、何といたっても健康が第一です。

去る6月、私たちの長中卒業50周年のクラス会があり、なつかしい校庭の一隅に記念植樹をした後、恩師の川村吉弥先生・鈴木倉雄先生をお迎えしての懇親会、50年の足跡をふりかえり大きな感動を分かち会いました。皆さんのクラス会にお招きいただくことも多く、往年の童顔を思い浮かべながら語り合うとき、教師冥利に尽きる思いに満たされます。

退職したとき、格別の趣味も持たず、とりあえず、ぼけ防止にとPC98を備えました。これが当初の意気込みとは裏腹になかなか使いこなせない。脳の萎縮が予想以上に進んできているらしい。MS-DOSで悪戦苦闘している傍らで、幼稚園に行っている孫が息子のマックでこともなげにゲームを楽しんでいる……。考えるより慣れよということでしょう。「おじいちゃんはいつもお休みでいいなあ」と孫たちはいう。この恵まれた自由の日々を大切にわが道を自分なりにゆっくりと歩んでいきたいと思っています。

東京鷹桜同窓会の一層のご発展と、会員皆様のご健勝・ご活躍をお祈りいたします。

^{おこた}
 情りと言われぬように

酒匂純孝先生

(体育)



昭和32年、若いというだけの理由で体育を担当させられてしまったという人がいる時代に、少なくとも「体育とは何か」という事を専門に学んだ者として長井南高校に赴任した。この年の7月7日は

大雨、翌朝には市内は水浸し、安城菓子店前の路上を池から逃げ出した鯉が泳いでいた。荒砥高校に転任した42年は羽越水害の年、この期間を若いにかかせて早苗ヶ原で夢中になっていた事になる。その後米沢工業、長井工業、置賜農業と実業高校で過ごし、3年前に現在の統合新設校である南陽高校に転任し、昭和1桁生れの最後の教師達として定年を迎えようとしている。

実に様々な事があったが、「卒業すれば社会人とする」事を目的としている実業高校では教師として学ぶべき事が多く、普通高校での「社会の要請及び本人の志望に応える」という美名の下に行なわれている進路指導中心の学習環境に改めて強い疑問を持たされた。それが今再び普通高校に身を置いてみてその偏向ぶりの更なる激化と、迎合するしかない生徒達に深化している無個性化現象に呆然としている。実業高校には凄惨な奴と脱帽させられる才能を持った者が悠々と自信を持って生活している姿を必ず何人かは見たものである。

人と人とが交流接触する事自体が授業である体育では、十人十色を大切にしながらも集団の迷惑や不利になる行動は厳しく排除していかねばならないという事もあり、生徒達の行動面では「体育科は学校の顔」という意識を持って指導に当たっている関係上、現在までには小過は数々あったろうがお陰様で、体育の考え方、学校諸行事の形態、陸上競技関係の事業等で何がしかの財産を残して身を引く事が出来そうである。有難い。

兎もあれまだ教育現場にあるので、「子を養いて教えざるは父の過ちなり。訓導して厳ならざるは師の情りなり。」という教育の原点を噛みしめながらの毎日である事には変りがない。

あの日
あの頃

長沼孝三先生をしのんで

高橋正二

東京鷹桜同窓会会長



戦前・戦中・戦後を通じ、一貫して在京同窓生の中心となって私達をご指導下さったのが長沼孝三先生でありました。

特に戦後の一時期においては、在京同窓会も氣息奄々として将にその絆の糸も切れかけんとした時もありました。然し、先生の激励と、先生を中心とした母校愛に燃える有志の方々と共に結束し、如何なる事があっても絶対にこの絆を断つては相成らんと誓い合い、幾多の難事を乗り越えて今日の隆盛を見ることが出来たのであります。

この基礎を確固たらしめて下さった先生のご功績は、わが同窓会の歴史に永く伝承・賞讃されることであらましよう。

去る10月31日、東京鷹桜会同窓会の平成5年度総会が、東京都庁構内のレストランにおいて開催されることに決定し、そのご案内を長沼先生に申し上げましたところ、先生には殊の外お喜びになり、この日の来るのを大変楽しみにして居られました。

それなのに、天は無情にもその直前、先生を召されてしまいました。嗚呼！

総会開催の冒頭、在天の先生に対し、一同黙禱裡に御冥福を祈念いたしました。

長沼孝三先生、何卒安らかに、そして相変らずの温顔を以てわれ等が母校を、私共を見守って下さい。合掌

(平成5年11月21日、—————)

故郷における御葬儀に献じた追悼のメッセージより)

◇ 長沼先生 略年表 ◇

明治41年

長井市宮、長沼忠兵衛、ちうの三男として生まれる。

大正9年(12才)

県立長井中学校の第一期生として入学。

大正14年(17才)

県立長井中学校卒業。

大正15年(18才)

東京美術学校(現東京芸大)彫刻科入学。

昭和6年(23才)

東京美術学校卒業。帝展に初入選。

昭和12年(29才)

第1回文部省美術展覧会に出品入選。

昭和16年(33才)

全日本彫塑家聯盟・青年彫塑家聯盟が創設され、創立委員となる。聖戦美術展に入選、陸軍大臣賞受賞。

昭和17年(34才)

造営彫塑人会創設、会員となる。顧問に高村光太郎氏。

昭和18年(35才)

満州美術学校開校、教授となる。

昭和21年(38才)

第1回新口展に出品。審査員となる。

昭和24年(41才)

上野駅前広場に「愛の女神」制作設置。戦後初の野外彫刻となる。

昭和35年(52才)

日展評議員となる。

昭和38年(55才)

東京家政大学教授となる。長井市市章をデザイン、9月議会で制定。

昭和53年(70才)

東京家政大学定年退職。同大学にて「愛の花園」除幕。

昭和56年(73才)

「あやめ公園70周年記念碑」設計制作。

昭和59年(76才)

日展参与となる。

平成元年(81才)

市政功労者表彰を受ける。

平成4年(84才)

長井市に長沼孝三彫塑館落成する。

平成5年(85才)

心筋梗塞のため急逝。享年85才。

あのひと

このひと



1年5組
クラス会のこと

仁科洋一

昨年の夏、クラス会の案内状を受け取った。それには長井高校1年5組のクラス会と案内されており、何と、再会が実現すれば実に26年振りということになる。担任、曾根伸良先生もご出席されるとのこと。9月4日という日を手帳に記入し、その日が来るのを心待ちにした。

いまにして思うのだが、1年5組の面々はかなり個性派が揃っていた様に思う。それだけに事件にも事欠かずで、曾根先生に平穏な日はなかったものと思われる。クラス会の席上、先生が個人、個人の名前を出しながら、その時々苦労話をされたとき、26年の年月を経てなお、昨日の事の様に話されるのは、それだけ苦労をかけたことの証かと反省しきりの面々であった。そういう私も先生には何度かご心配をおかけしている。

2学期がはじまって間もなく、従兄弟から借りたバイクで東北方面への旅行を企てたのである。勿論、学校はズル休み、バイクも校則で禁止されていたように記憶している。

長井から小国町を經由し新潟県に入り、海沿いの国道7号線を気持ちよく飛ばしたのを覚えている。

結果は、途中立ち寄った知り合いの所に父親から連絡が入っており仕方なく帰途についたのだが、大目玉を覚悟の私を前に、先生も父も遂に声を荒げる事はなかった。後になって父に聞いたのだが先生から怒らないようにと申し出があったそうだ。

帰りの列車の中、宿酔の頭で、何故か心地よくあの頃が思い出されるのは、どうやら1年5組のクラス会のお蔭らしい。何をやっても懲りない面々だが、人を思いやる事も決して忘れない面々である。

(昭和45年卒)



イタリアの
車窓から見たもの

三上淑子

'94年6月下旬から10日間、知人夫妻と娘と4人で旅をする機会を得た。ミラノ→フィレンツェ→アッシジ→ローマと鉄道で移動した。東京～姫路とほぼ同じくらいの距離だそうだが、運賃は日本の半分くらいになるだろうか。時間は多少かかるものの初めて見る異国の風景は少しも飽きさせることなく、十分に楽しませてくれるものがあった。始発のミラノ駅は中世の宮殿を思わせるような荘厳な建物、巨大な駅構内。それなのに発車を知らせるアナウンスもベルもなく、静かに列車は動き出した。駅周辺の景色は茶色のレンガ造りの家、アパート、そのほとんどのベランダに、真赤な花が照りつける太陽の下でとても情熱的に咲き誇っていた。楽しみながら花の咲くのを待ち、眺め、声をかけて手入れしているであろう家人のゆとりが見えたようで心の安らぎを覚えた。車窓は田園風景へと移った。そこに見えてきたものは、思わずアッと声を出した程の広大なひまわり畑。幾何学模様を思わせる黄色、緑、茶色のむぎ畑。ただただ広いー美しいなーという嘆息の連続。それがいつの間にか懐かしい風景に移り変っていた。広い畑の中に点在するひととき濃い緑の灌木、そびえ立つ木々、線路端に咲いている小さな草花。

それは私を育ててくれた長井市成田の西山、東山、麓に広がる青々とした田んぼの光景と重なり合っていたのです。「置賜は、くにのまほろば菜種咲き、若葉しげりて雪山も見ゆ」(結城哀草果詩、山口のぶ作曲)を知らぬ間に口ずさんでいた。そして思いました。ふるさとと素晴らしい自然は私にとって安らぎを与えてくれる最高の財産だと。

(昭和38年卒)

千 鷹 桜 通 信

高橋清蔵 (大14年卒) 生憎、部落の老人クラブの運動会が開催され、どうしても出席しなければなりませんので欠席します。親類の法要に参列のため去る1日から8日間帰郷しまして、久しぶりに故郷の秋を楽しみ、文教の杜「長沼孝三彫塑館」と街の中の小さな美術館「やませ蔵」を見学したり、椿の「がまの湯」飯豊旅館に一泊して、旅の疲れを流したり快適な旅でした。

後藤恒雄 (昭3年卒) 久しぶりに諸兄とお会いしたく思っておりました。当日は山形に行つて留守になるので残念ながら欠席となります。

林崎春子 (昭4年卒) 会報、とても懐かしく拝見させていただきました。どのページを読んでも長井の匂いが充満していて、嬉しい限り、昨今同級生の御名前が1人減り2人消えて淋しく感じておりました。何よりの会報でした。ありがとうございました。

岡田政美 (昭4年卒) 傘寿を越え、急速に医師と親しくなる破目となり、現在は医院通いをしており、残念ながら欠席いたします。御盛会をお祈りいたします。

須藤軍二 (昭4年卒) 81才ですが、どうか健康を保っております。近くの多摩川堤を歩くのがH課です。

高橋健三 (昭6年卒) おかげ様にて何とか消光いたしております。お会いしたい方沢山ございます。少々脚が不自由ですので欠席させていただきます。皆様の御盛昌をお祈りいたします。

菊池幸一 (昭7年卒) 父の仕事の関係で昭和6年に鶴岡中学から転校。昭和7年に長中を卒業しました。高橋会長と同期です。御盛会をお祈りします。

加藤益江 (昭10年卒) 会報ありがとうございました。昭和10年卒もだんだん遠くなり、若い皆様の時代となりました。益々の御活躍の程お祈りいたします。私も75才となり、足が少々弱くなりましたが、大好きな日本画を勉強し日本画院展に所属し、上野美術館にも出品しております。秋は新宿の朝日生命ギャラリーです。一つの事に情熱をかけると云う事のすばらしさ。いつの日か表紙の祝瓶山に挑戦してみようとおもいます。御盛会

をお祈りいたします。

金子ちよ (昭10年卒) 会報ありがとうございました。ボーイスカウト・バザーのお手伝いのため欠席させていただきます。テレビで長井の獅子舞をやっている思わず釘付けになった翌日、会報を御送付いただき殊の外懐かしく拝見しました。柴田静子様の方言等忘れていた昔を思い出し、改めて長井の良さを認識した次第です。

五十嵐文夫 (昭15年卒) 30・31日にかけて山形の村山市楯岡の居合神社に奉納演武に参ります。小生只今、居合馬鹿と言われる様に居合道に打込んでおります。同窓生の皆様の御健勝をお祈りいたします。

今野健二郎 (昭16年卒) 当日、是非ない私用につき欠席させていただきます。会場に最も近くに住んでいるだろうと思いますが、申し訳ありません。又の機会を楽しみにしています。

斎藤利雄 (昭20年卒) 今回も残念ながら欠席させていただきます。会報御送付ありがとうございました。鈴木倉雄先生のお元気な姿を拝見、嬉しく存じます。先生には東洋史と西洋史を習いました。ご健康をお祈りいたします。

荒木よし子 (昭21年卒) 昨年、両親の墓参の帰りに米坂線に乗りましたが、小国を過ぎる頃から山々の紅葉・黄葉が見事で、列車の中まで明るくなるようで陽は照り映え、碧り色の川の流れと共に日本の秋を美しく彩っておりました。

稚子妃ブームの前の村上市へ行き鮭づくしの御料理をいただいて帰京しました。

滝井いち (昭23年卒) お忙しい中、毎年総会の準備本当に御苦勞様です。勇気をもって出席できます折を夢みて今年も失礼させていただきます。会報に載せていただき反響がございました。ささやかな喜びでございます。

千葉早苗 (昭26年卒) いつもお誘い下さいます。誠にありがとうございます。私は10年程前から福祉関係に首をつっこんでしまい、今、建設準備委員として走り回っております。昨日、別の会合で奥村三郎先生とお会いしました。とてもお元気でした。ご盛会をお祈りいたします。皆様によるしくお伝え下さい。

竹井信哉 (昭26年卒) 同窓会の役員の皆様にはいろいろと御苦勞様です。せっかくですが、当日は私共の園の運動会予定日となっており、現在出席は出来ぬかと思われま。皆様方によるしくお伝え下さい。

高橋秀暁(昭27年卒) 本年度の秋の園遊会にお招きいただき、天皇皇后両陛下、並びに皇族各殿下下拝顔の榮に浴して参りました。これも皆様方のお陰と感謝している次第です。

西谷さだ(昭27年卒) 事務局の皆様ありがとうございます。10月2日長高27会が白鷹町のパレス松風にて開催されて出席してまいりました。久々に故郷の香り一杯、友情を温めてもどりました。

土屋年彦(昭28年卒) 秋の総会案内をいただいても、いつも残念に思うのですが、インテリア設計と工事をやっておりますので、一年を通じて最も忙しい時期となり欠席させていただきました。事務局の御苦労に感謝いたします。

今野うら子(昭31年卒) そろそろと思いながらお知らせ心待ちにしておりました。一昨年は何10年振りかで親戚の今野伊勢雄氏とお会いでき、とても感激的だった事を思い出しております。九野本出身者が少ないので少しばかり心細い思いですが、故郷に心を向ける日となると思います。

新川美智子(昭31年卒) 当日は全日本新体操ジュニア選手権大会が代々木体育館で開催され、その役員のため都合がつきません。残念ながら欠席となります。次回を楽しみにしております。

新野ヤス(昭36年卒) この頃、歳のせいか故郷が懐かしく思い出されます。出席できませんが、御盛会をお祈りいたします。いつも御案内下さる事務局の皆さんに感謝申し上げます。

片倉久子(昭38年卒) 同窓会報をいただき、なつかしく拝見いたしました。残念ながら今回は都合により出席出来ませんが、皆様によりしくお伝え下さい。今後共よろしく願いいたします。

佐藤多美子(昭40年卒) いつも御連絡ありがとうございます。会報にて菅間誠一先生の懐かしい御写真を拝見させていただき近況を知る事ができました。残念ながら今回も欠席させていただきます。

大崎弘子(昭40年卒) 今年もまた楽しみにしておりました会報ありがとうございます。西根で育ちました私にとって「いわいがめやま」の写真や「先生お元気ですか」のコーナーはとても懐かしく拝見いたしました。卒業して28年、今尚当時のままの高校と諸先生方を思い出します。丁度長井への帰郷を計画しておりますので残念ながら、今年も欠席させていただきます。御盛会をお祈りいたします。

秋山智子(昭41年卒) いつも御連絡ありがとうございます。なかなか出席できませんが、会報を懐かしく読ませていただいております。鈴木倉雄先生の歴史の授業を思い出し、またお元気な御様子や御活躍ぶり、すばらしいと感じております。

藤田健二(昭43年卒) 商用でドイツ出張となりそうです。欠席させていただきます。いつもながらの御案内に感謝いたしております。同窓会の今後共の発展をお祈り申し上げます。

佐藤いく子(昭44年卒) 幹事の皆様、本当にありがとうございます。先日はお手伝いができず申し訳ございませんでした。行き違いになってしまった様です。

酒井千枝(昭47年卒) 6才を頭に、3才、2才の3児の育児に追われています。残念ながら出席できません。表紙の写真が宇津木氏の撮影と知り、学生時代が懐かしく思い出されました。御盛会をお祈りいたします。

林操子(昭49年卒) 今回の会報は特別の感慨をもって見させていただきました。鈴木倉雄先生は私の父の恩師であり、また菅間誠一先生は私が三年生の時数学でお世話になりました。さらに「巻頭の言葉」の大友君は私の同級生です。世代を越えた交流の出来る同窓会の存在価値を改めて感じました。今度の総会、残念ながら出席できませんが、会の発展と皆様の御多幸を心からお祈りいたします。

山平洋子(昭49年卒) いつも会報と御案内をいただきありがとうございます。今回の会報に、事務局長の大友氏初め同年卒の懐かしいお名前を拝見して、しばし20年前を思い出してしまいました。残念ながら今年も欠席させていただきます。事務局の皆様御苦労に感謝申し上げます。

加納隆子(昭54年卒) 御案内ありがとうございます。子育てから手が離れてゆとりが出てきたら、是非出席させていただきたいと思います。社宅から昨年12月末ようやく脱出し、家を購入し引越しました。自然環境にも恵まれ伸び伸びとした生活を送れる事が何よりです。

* * *

今回も多くのお便りありがとうございます。このコーナーが同窓生の皆様の御交流の一助となればと常々考えております。

次回も更に多くの皆様の御返信、心よりお待ちしております。

◇事務局報告◇

(1) 活動報告

平成5年8月6・15日 会報No.12号編集会議
(土屋事務所)。

10月3日 案内状の発送 四ッ谷・中央リサーチ(株)事務所——(35年卒坂本キミ子さんの厚意により) 36年と44年卒の会員31名の協力で、総会の案内状と会報(約3100通)の発送作業を行う。

10月27日 事務局会議(東京都庁内プチモンド)総会の打ち合わせ。

10月31日 平成5年度・東京鷹桜同窓会総会及び新人歓迎会を開催(プチモンド)。

本部から村山秀雄会長、平野支部長の吉新中氏、大泉慎一学校長と本部事務局長の菅原文雄先生が出席。会員110名と新人3名の出席。

又、25年卒の高橋俊龍東京都副知事が出席された。

11月1日 前会長の長沼孝三氏(10月22日急逝享年85才)の葬儀。

11月21日 長井市の摂取院で行われた長沼孝三氏告別式及び追悼の会に、高橋忠三副会長が参列。

12月8日 忘年会を兼ね総会の反省会及び慰労会(六本木・中華楼)役員と担当学年27名出席。

平成6年2月5日 本部にて支部連絡協議会に高橋正二会長出席(長井市)。

3月3日 役員会(もきち) 大友事務局長の転勤に伴い、後任の事務局長を選出。46年卒の安部俊彦氏を選出、役員会で承認。14名出席。

5月28日 役員会(もきち) 学年幹事会の打ち合わせ、14名出席。

6月7日 学年幹事会(神楽坂エミール)43名出席。総会の担当学年は36年と49年卒が当る。

6月18日 平成6年度本部同窓会総会開催(長井・TAS)4年卒の桑島喜平相談役が出席。

7月8日・8月4日 会報No.13号の編集会議(主婦と生活社)尚、今年度より志釜拓氏(48年卒)が編集委員として加わる。

(2) 平成5年度会計報告

(平成5年4月1日～平成6年3月31日)

〈収入〉

前年度繰越金	713613
事務費	687000
総会費	875000
役員・幹事会費	362000
御祝金	90000
本部助成金	10000
受取利息	36208
計	2,773,821 ^㉑

〈支出〉

総会費用	631180
事務費	23556
会議費	758747
印刷費	264884
通信費	331428
交通費	80000
本部協力金	30000
交際費	72277
計	2,192,072 ^㉒

㉑ - ㉒ = 581,749円(次期繰越金)

編集後記

ため息が出そうな猛暑の夏でした。昨年の冷夏とは様変わり、円高や政権交代など社会状況にも大きな変化があった一年でもありました。

東京鷹桜会にとりましても、初代会長の長沼先生の御逝去という悲しい出来事もありました。今号は長沼先生の追悼のページも編集させていただきました。

世の中の動きが早く、激変の連続ではありますが、こういう時こそ同窓の皆さんの結び付きの重要性を感じる時とも思います。来たる総会での皆さんの御出席をお待ちしております。

最後に御協力いただいた皆さんに心より御礼申し上げます。

東京鷹桜同窓会報 第13号

平成6年10月1日 発行

発行人：東京鷹桜同窓会

編集委員：遠藤 剛

志釜 拓

*東京鷹桜同窓会：長井中学・長井高女・長井南・長井北・長井高校の卒業生による東京首都圏在住者の同窓会組織

*事務局：〒107 東京都港区赤坂1-6-14 赤坂協和ビル204
土屋・味岡法律事務所内 (電話:03-5570-5834)